

事業概況

化成品



化成品セグメントは、皆様の暮らしに欠かせない様々な製品の原料となる基礎化学製品を取り扱っています。1918年の創業以来の事業であるソーダ灰、「煙突のあるところには必ず使用される」と言われる苛性ソーダ、塩素誘導品などの製品は非常に幅広い用途を持ち、各産業において必要不可欠なものとなっています。また苛性ソーダの製造工程で発生する塩素と水素は多結晶シリコンの製造工程で使用されており、当社の収益を支える基盤事業としての役割も担っています。なお2013年に開業した液化水素製造の合弁会社、山口リキッドハイドロジェン(株)を通して、当社の水素が種子島宇宙センターのロケットの燃料としても使用されるなど、最先端の宇宙開発にも貢献しています。当セグメントでは、「顧客に選ばれ続けるトクヤマを実現する」という目標のもと、顧客・企業個々の要請を受け止めて、ニーズに見合った安定かつタイムリーな製品・サービスの提供に努めています。

事業	主要製品
ソーダ・塩カル	ソーダ灰、塩化カルシウム、珪酸ソーダ
クロルアルカリ・塩ビ	苛性ソーダ、塩化ビニルモノマー（VCM）、酸化プロピレン、塩素系溶剤
ニューオーガニックケミカルズ	工業用イソプロピルアルコール（IPA）
グループ会社	ソーダ灰・塩化カルシウム（トクヤマ・セントラルソーダ(株)） 塩化ビニル樹脂（PVC）（新第一塩ビ(株)）

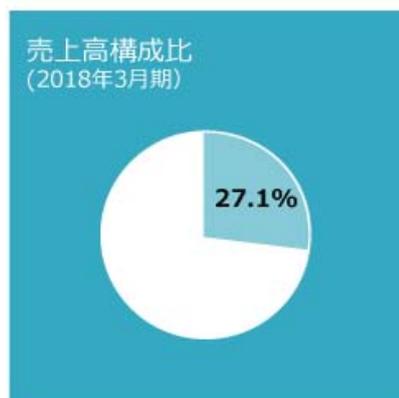
当期の業績（2018年3月期）

苛性ソーダは、アジア市況の上昇を背景に、国内と輸出の販売数量がそれぞれ増加し、国内の販売価格の是正も進んだため、増収となりました。

塩化ビニルモノマーは、アジア向けの輸出を中心に販売数量が増加し、販売価格も堅調であったことから、増収となりました。

塩化ビニル樹脂は、価格是正が進んだため、増収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は935億46百万円（前期比12.2%増）、営業利益は161億75百万円（前期比24.4%増）で増収増益となりました。



今後の戦略

顧客ニーズに沿った、高品質でコスト競争力に優れた基礎化学素材及びサービスを提供することにより、顧客の事業発展に貢献するとともに、当社の中核事業として安定的・継続的な収益向上に貢献します。そのための重点施策は以下のとおりです。

■ソーダ・塩カル事業

国内単一メーカーとして、製品の安定供給・品質維持に取り組みます。

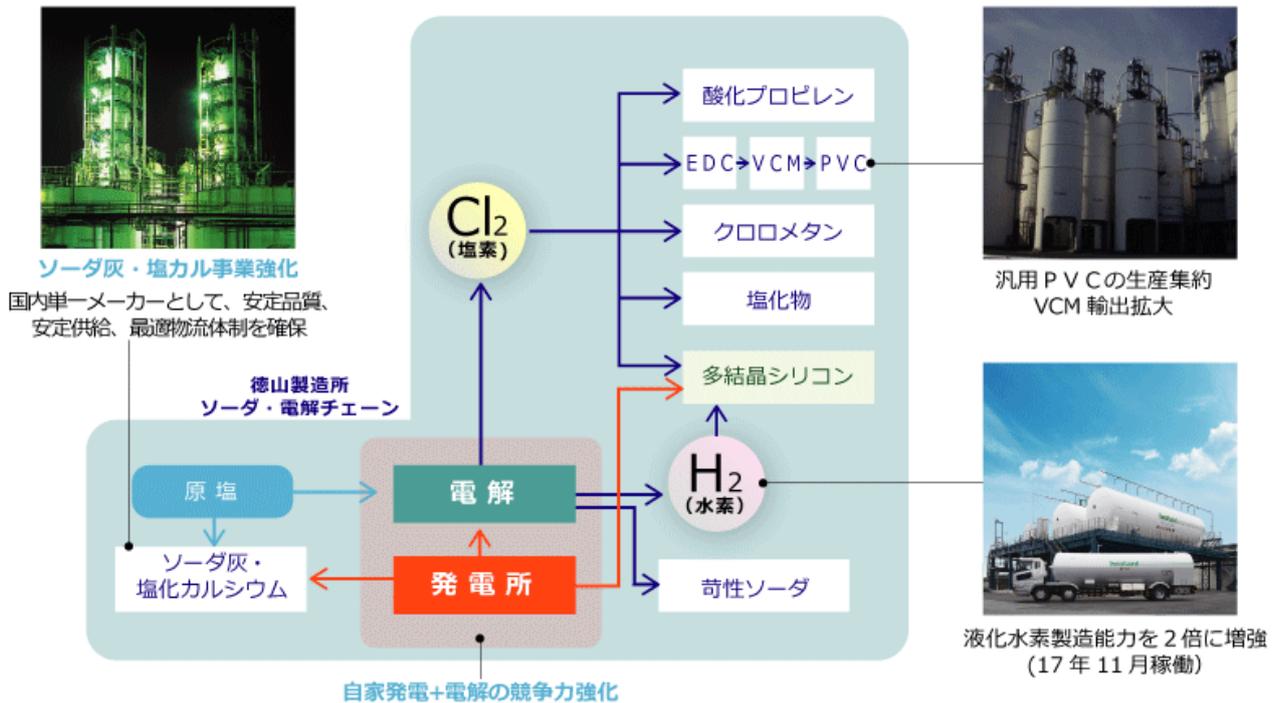
■クロルアルカリ・塩ビ事業

苛性ソーダ・塩素の更なる原価低減を目指した自家発電と電解の競争力強化を図ります。

塩化ビニルモノマーの輸出拡大とプラントのフル稼働維持に努めます。

塩ビ・酸化プロピレン・クロロメタンなどの塩素誘導品における収益力を高めます。

事業再構築・競争力強化の取り組み



特殊品



特殊品セグメントの製品分野はエネルギー、エレクトロニクス、環境など多方面にわたっています。例えば半導体や太陽電池に使われる高純度多結晶シリコンは、世界有数のシェアを持っています。またその副産物から製造する乾式シリカはシリコーンゴム、半導体用研磨材、複写機トナーなどに使われています。

放熱性という特長を持つ窒化アルミニウムは、半導体の製造装置をはじめ、インバーター、LEDなどの省エネルギー分野でも利用され、電子工業用高純度薬品は半導体、液晶パネルの製造などに役立っています。

特殊品セグメントは今後も高純度化、粉体制御などの特有技術を基盤として世の中の役に立つユニークな製品を創り出していきます。

事業	主要製品
電子材料	多結晶シリコン
乾式シリカ	乾式シリカ、四塩化珪素
放熱材	窒化アルミニウム
ICケミカル	電子工業用高純度薬品、フォトレジスト用現像液
洗浄システム	金属洗浄用溶剤
グループ会社	乾式シリカ（徳山化工（浙江）有限公司） 窒化アルミニウム白板（TDパワーマテリアル㈱） 電子工業用高純度薬品（台湾徳亞瑪股份有限公司）

当期の業績（2018年3月期）

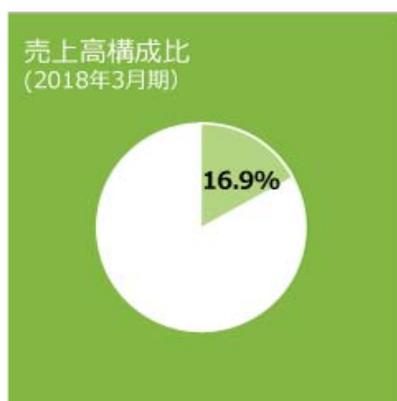
多結晶シリコンは、半導体向けの販売数量は堅調に推移したものの、Tokuyama Malaysia Sdn. Bhd. の譲渡に伴う連結除外により、減収となりました。

乾式シリカは、半導体用研磨材向けを中心として販売が堅調に推移し、増収となりました。

電子工業用高純度薬品は、半導体製品用途で販売が増加し、増収となりました。

窒化アルミニウムは、半導体製造装置部材向けを中心として販売が増加し、増収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は586億78百万円（前期比13.4%減）、営業利益は110億3百万円（前期比19.4%増）で減収増益となりました。



今後の戦略

顧客から選ばれ続ける製品の供給と開発品の提案により、事業と収益の拡大を図ります。そのための重点施策は以下のとおりです。

■多結晶シリコン（半導体向けグレード）事業

最先端品をはじめとする顧客要求品質を的確に把握し、品質世界一とコスト極小化を実現します。

■乾式シリカ事業

CMP・シリコン向けに続く高機能品を拡充します。

徳山化工(浙江)有限公司におけるコストダウンと高付加価値化に取り組みます。

■I Cケミカル事業

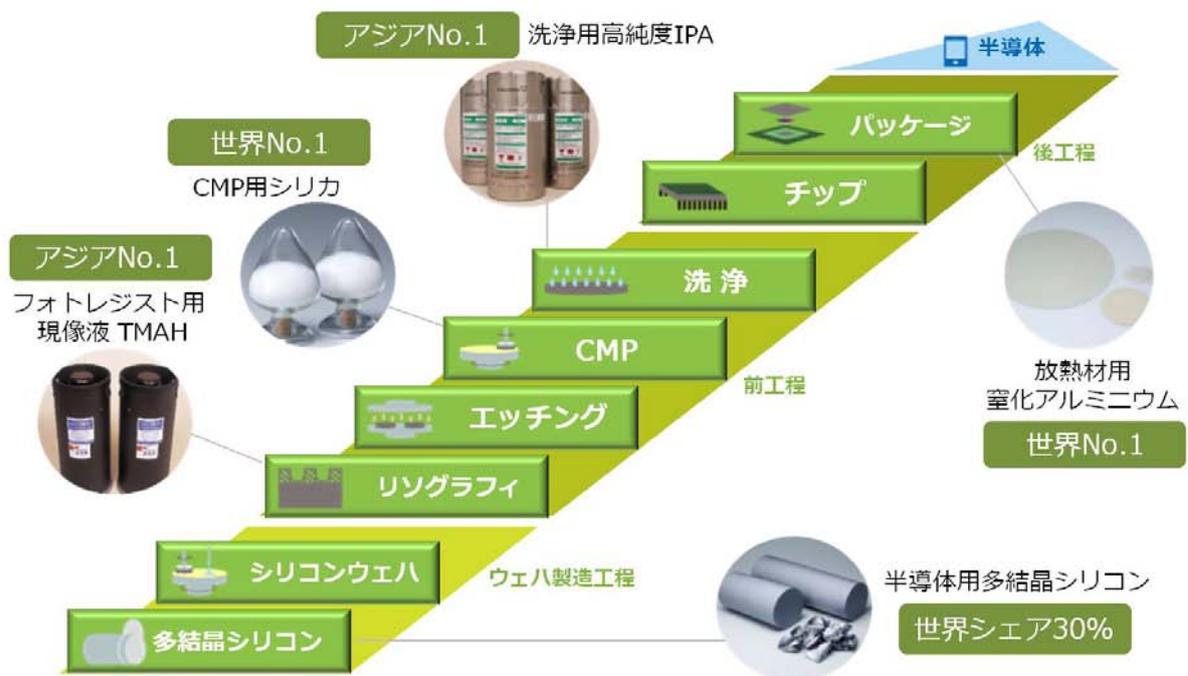
先端半導体向け製品の拡販、品質向上を図ります。

■放熱材事業

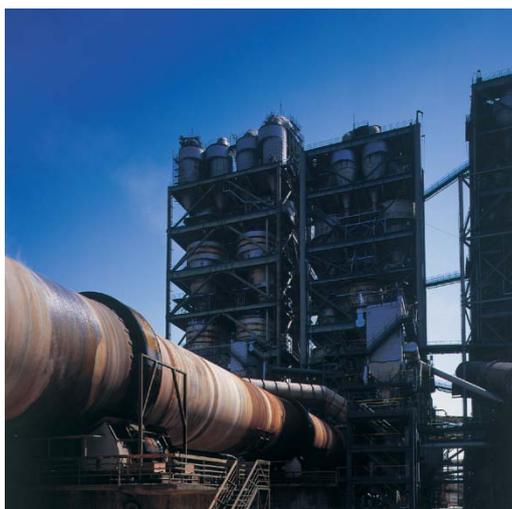
2018年4月に窒化アルミ粉末の生産能力増強を行い、生産能力が480トン/年から600トン/年に拡大しました。

窒化ホウ素及び窒化アルミニウムフィラーなどの製品ラインナップ拡充に取り組みます。

ICTの進化を支えるトクヤマの半導体関連製品



セメント



トクヤマのセメント事業は、1938年に徳山製造所内の副産物の有効活用という、時代に先駆けた観点でスタートしました。南陽工場で製造するセメントやセメント系固化材など関連製品は、生コンクリートやコンクリート二次製品に形を変え、住宅・ビル・ライフラインを支える構造物、港・橋・道路など社会資本になって人々の暮らしを支えています。

現在は社内だけでなく、社外からも廃プラスチックや家庭ゴミを燃やした後の灰など多くの廃棄物を受け入れ、セメントを製造する工程で原料や熱エネルギーとして利用しています。社会に開かれたリサイクルを実現し、限りある資源を有効に活用する資源循環型社会の形成に貢献しています。

また、(株)トクヤマエムテックでセメント系やモルタル系の各種建材製品を製造販売するほか、当社独自の、漆喰をシート化する技術により、建築内装材「漆喰ルマーージュ」や、古典的なフレスコ画の技術に、漆喰による立体造形技術を組み合わせた

最新フレスコ技法「Fresco Graph」などを展開し、セメント・建材分野で培った技術で新たな可能性を見出しています。

事業	主要製品・サービス
セメント	セメント、生コンクリート、セメント系固化材
資源環境	資源リサイクル
グループ会社	セメント、生コンクリート（広島トクヤマ生コン(株)、トクヤマ通商(株)、他）

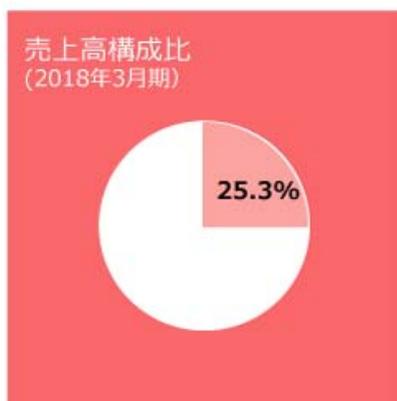
当期の業績（2018年3月期）

セメントは、東京五輪のインフラ関連工事が本格化し、東京地区を中心として国内向け販売数量が増加したことと、アジア地区における旺盛な需要を背景に輸出も増加したことにより、増収となりました。一方で、石炭等の原料価格の上昇により製造コストが増加しました。

資源リサイクルは、廃棄物の受入数量は減少したものの、廃棄物処理単価が上昇した結果、売上高はほぼ前期並みとなりました。

連結子会社は、生コンクリート等の出荷が好調だったことにより、増収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は873億4500万円（前期比5.2%増）、営業利益は45億6800万円（前期比39.5%減）で増収減益となりました。



今後の戦略

事業環境の変化に対応した最適な製造・販売・物流体制の整備と、輸出拡大による廃棄物処理収益の最大化及び原価低減による競争力強化を図ります。そのための重点施策は以下のとおりです。

■セメント事業

生産効率及び原単位改善と廃棄物の受入増加を軸とした原価低減を進めます。

4号キルンを最大限活用した輸出の拡大により収益確保を図ります。

(株)トクヤマエムテックによるインフラの補修・補強事業を拡充します。

■資源環境事業

原料系の最適化と可燃系廃棄物の活用促進及び燃料化プラント事業の最適化を推進します。

廃石膏ボードリサイクルなど既存リサイクル事業の安定操業及び新たなリサイクル事業の創生に取り組みます。

セメントクリンカー輸出拡大



クリンカーシップローダー（徳山製造所）



トクヤマニューカレドニア

ライフアメニティー



ライフアメニティーセグメントは、ポリオレフィンフィルム、医療診断システム、歯科器材、イオン交換膜、樹脂サッシ等を手掛けるグループ会社及びトクヤマのファインケミカル事業とNF事業を統括するセグメントです。2013年4月に機能部材セグメントからライフアメニティーセグメントに改称しました。

ファインケミカル事業では、当社の強みである有機合成技術から生まれた、メガネ関連材料やジェネリック医薬品原薬・中間体を中心に事業展開をしておりNF事業では、水は通さず空気や湿気は通すというフィルムを製造販売しています。

海外グループ会社としては、中国で紙おむつ用の通気性フィルムの製造販売を担っている上海徳山塑料有限公司などがあります。

事業	主要製品
ファインケミカル	医薬品原薬・中間体、プラスチックレンズ関連材料
NF	微多孔質フィルム
グループ会社	ポリオレフィンフィルム（サン・トックス㈱） 医療診断システム（㈱エイアンドティー） 歯科器材（㈱トクヤマデンタル） イオン交換膜（㈱アストム） 樹脂サッシ（㈱エクセルシャノン）

当期の業績（2018年3月期）

歯科器材は、新製品や海外向けの販売に積極的に努めたことから、増収となりました。

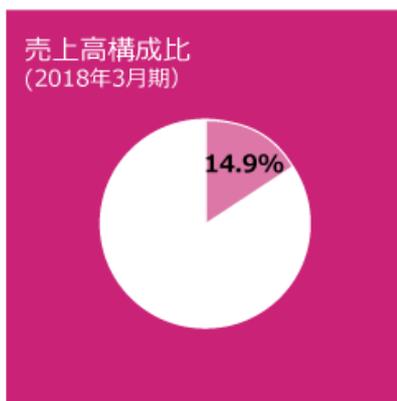
イオン交換膜は、大型案件の受注により、増収となりました。

医薬品原薬・中間体は、ジェネリック医薬品向けの販売数量が減少し、減収となりました。

微多孔質フィルムは、紙おむつなどのサニタリー用品向けで、海外の連結子会社での販売が振るわず、減収となりました。

ガスセンサの製造・販売を行うフィガロ技研株式会社の株式の一部を譲渡したことに伴い、前年度の第2四半期連結会計期間より、同社を連結から除外しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は515億79百万円（前期比1.6%増）、営業利益は37億28百万円（前期比30.8%減）で増収減益となりました。



今後の戦略

顧客起点の開発・製造・販売体制の確立・強化により、国内外の市場で優位なポジションを獲得し、事業の拡大を図り、人々の生活・健康（QOL）の改善に貢献します。そのための重点施策は以下のとおりです。

■NF事業（微多孔質フィルム）

中国子会社において、一層の品質改善及び製造コスト低減に取り組み、収益改善を図ります。

■ファインケミカル事業

メガネレンズ用フォトクロミック材料のシェア拡大と用途開拓を図ります。

■歯科器材事業：(株)トクヤマデンタル

審美充填材料（コンポジットレジン）を中心とした海外展開をさらに加速します。

■ポリオレフィンフィルム事業：サン・トックス(株)

スクラップ&ビルドを行った設備を活用し、拡販に努めます。

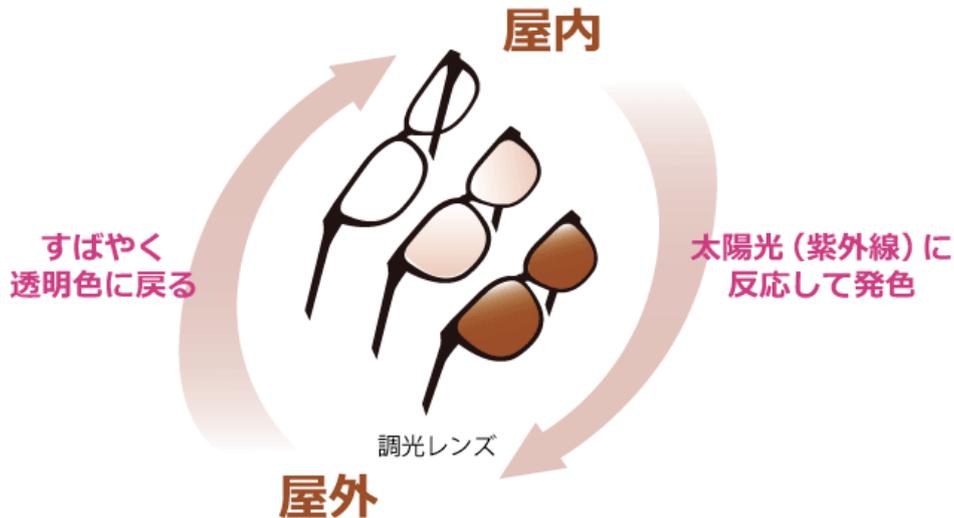
■樹脂サッシ事業：(株)エクセルシャノン

ゼロエネルギーハウス（ZEH）向けの拡販に注力します。

フォトクロミック材料（調光材料）

フォトクロミック材料とは

太陽光(紫外線)を照射することによって、無色からグレーやブラウンなどに発色し、照射を止めると再び無色の状態に戻る樹脂材料



当社製品の特長

- 赤・青・黄の3原色発色による豊富なカラーバリエーション
- 速い発色、退色速度
- 夏場の高温下でも十分な発色性能
- 優れた耐久性
- 紫外線を99%以上カット

